

## 三番瀬再生事業凍結して検証を 市民団体が知事に要望

三番瀬研究会、三番瀬フォーラム、日本野鳥の会県支部の3市民団体は27日、「8年間迷走した県の三番瀬再生事業はいったん凍結し検証すべき」などとする意見書を、森田健作知事に提出した。

意見書は「三番瀬再生会議は8年間にわたり検討を続けているが、いまだに再生のランドデザインすら描けないまま迷走している。会議経費や護岸工事で20億円の県費が投じられているが、環境は悪化の一途をたどっている」と指摘。①地元の以降を尊重した再生事業の推進 ②海域利用のすみ分けなども求めている。また、ラムサール条約については「部分的登録は本末転倒。登録しただけでは環境や漁場再生の役には立たない」としている。

同研究会の小埜尾精一代表は「再生会議は、現場や漁業者から出た建設的な意見もつぶしてしまういわば疫（やく）病神。この際、会議を廃しするかどうかも検討すべき」としている。

2010.5.28 千葉日報